



子どもの肥満やメタボリックシンドローム、 2 型糖尿病に対する作業療法に関する研究

保健福祉学部 作業療法学科

講師 吉岡 和哉（よしおか かずや）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス
Tel 0848-60-1120(代)
E-mail yoshioka@pu-hiroshima.ac.jp
※@マークを半角に置き換えて下さい。

専門分野： 作業療法：発達障害/子どもの肥満、特別支援教育

キーワード： 肥満、メタボリックシンドローム、2 型糖尿病、
発達障害、特別支援教育

● 現在の研究について

近年、生活習慣の変化により子どもの肥満症やメタボリックシンドローム、2 型糖尿病が世界的に問題となっています。子どもの 2 型糖尿病を発病時に 75～85%が肥満症を合併しているという報告があります。肥満は身体面への弊害だけでなく、精神的・心理的にも弊害が認められ、劣等感に悩むことも多く積極的な行動がとりにくいなど、場合によっては引きこもりや不登校となることもあると言われています。

生活習慣や周りの環境が影響することなど、作業療法の視点から対象となる子どもやその家族に対する支援方法に関する研究を進めています。

作業療法士など子どもの肥満に対する支援者や視点が広がることで、より健康的な生活習慣を獲得することへとつながり、脳卒中のリスク軽減など、生活習慣が起因となる病気の予防になると考えられています。

今までの研究では、子ども達自身が病気について、普段の生活に対する捉え方についてインタビュー調査を実施しました。その結果として、健康的な生活につながるポジティブな認識と病気を助長してしまうネガティブな認識について明らかにしました。

● 今後進めていきたい研究について

1 番は健康的な生活につながる支援方法を

明確にすることです。その為に、対象となる子どもやその家族に対し支援を実施するために必要な生活環境や状況について検討を行っていきたいと思っています。また、多職種・多領域の方たちと連携した支援方法についても確立していきたく思っております。

発達領域の作業療法について

私の作業療法士としての臨床は、発達障がいのある子どもの療育・家族支援が専門です。

その中で、学校との連携がとても重要であることを実感しております。作業療法士は、学校の先生方とどのように協働することが出来るのか研究していきたいと思っており、まずは実態把握を実施することも必要かと思っております。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

子どもの肥満に対する研究では、医療と日常生活の場となる学校との連携も進めていければと思っております。

学校生活の中で子ども達は自信を持ったりそうでなかったりと、いろいろと経験するため、健康的な生活の継続につながる経験を持てるように先生方と協働できればと思います。

発達領域の作業療法については、学校の先生と連携し、ICT の活用や合理的配慮など、児童・生徒・先生、そして学校の中で可能な内容について検討ができればと思います。

● これまでの連携実績

特別支援学校（肢体）における支援など。
日本糖尿病協会「お子さんと一緒に・スリムミニキャンプ」